

ふれんど通信

第23号

発行 平成27年10月15日 児童養護施設ふれんど
〒348-0047 羽生市大字下新郷 666 TEL048-560-5866

「職場におけるリーダーシップとは」

施設長 川田光好

施設長として環境や集団の違いや、職員集団によって、リーダーシップスタイルは工夫改善されるべきと考える。

個人に対しては、仕事思考機能や人間関係思考機能を使い分け、適切な対応をする。言い換えれば施設の良し悪しは、施設長にかかる。毅然として、一貫した決断を下せる自信と力量を身に着けた施設長になりたい。

職員のより高いモチベーションは、個々の能力が最大限に引き出され活用された時に頂点に達するものであろう。それは職務が充実し、個人の達成・承認・昇進・責任の欲求が満たされた時に生まれるものである。会社勤めの友人から、やる気満々で入ってきた新入職員が、1年足らずで辞めてしまうという話を聞く。職場の現実で失望したのか、仲間に支えられなかったのか、様々な理由があるだろうが、仕事に誇りが持て、必要とされる自分がいると感じた時、エネルギーがわいてくるものだと思う。

まさに施設経営者の真価が問われる。私は常に職員に耳を傾け、職員の不満を取り除き、または共有することで、コミュニケーションを保つように心がけている。そうすることで職員のモチベーションも上がり施設の成果にもつながるものと確信する。些細なことでも施設長に報告し、ホウ・レン・ソウの原則を実践するように呼びかけている。

まずは、内発的・外発的なモチベーションのアップを願いながら様々な工夫をしているところである。仕事に面白さや充実感を感じて頑張ろうとする意欲・モチベーションが育ってくると、自ら課題をアップして工夫改善を加えようとする自主性が生まれ、前向きに仕事に取り組むようになってくる。

次に当然連鎖するかのように相乗効果が表れて、仕事も順調に進み、成果が上がるようになってくる。私は、職員と一緒に歩むリーダーでありたいと考えている。

毎朝職員に進んで挨拶をする。職員と一緒に掃除をする。仕事をよく見ている褒める。

「ありがとう」の言葉が自然に出てくる自分でありたい。

☆夏の思い出☆

2015年の夏も暑い日々が続きましたが、楽しく過ごせたようです。
みんなは、どんな夏の思い出ができたかな？

ぼくの夏休みの思い出は、ラウンドワンでマリオカートをやったのしかったです。

H.S

今年の夏休みは昨年と違い充実した夏休みを送ることができた。一泊旅行では、東京ドームシティ、東京散策など普段味わうことのできない都会の雰囲気を楽しむことができ、良い思い出をつくることできた。他にも、部活動では、学校のある日は違い、長時間の練習でとても大変だった。また、今年は特に暑く熱中症にも対策にも、とも注意した。夏休みの課題に飽きれることもなく最終日まで楽しめた。これからもかんぱりしたい。

T.H

夏休みに見たり日映画観きました。その日映画はナルトで"しらかば"はナルトのアニメをみこります。TA

※—※しらかば 夏の思い出 ※—※
ジャグ道の試合でマインをとってうれしかった。
こんどはもつとかんぱりしてこりて。

A.Y

夏の思い出

私の思い出は一泊旅行に行った事です。一日目はバイキングに乗ったり、水のジェットコースター?に乗りました。一番思い出に残っているのはおぼけやしきです。おどろアしになっいて、前になかなか進めませんでした。二日目は、渋谷に行ったり原宿で買い物したり、お店に入るとカワイグッズや洋服がいっぱいあり、夢みたいでした。スイーツのラダイスに行ったり、ハイモ、黒子のバスケ、弱虫ペダルなどのグッズがたくさんありました。

A.O



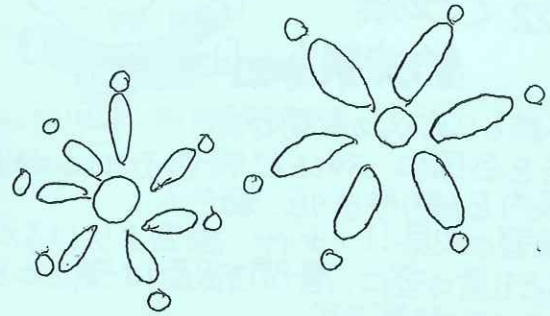
S.O

やきとうもろ
こしをたべ
たよ

夕泊で花火大会に

行った。

きれいだった。



A.O.H



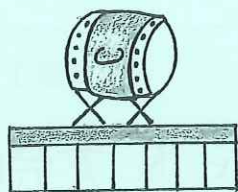
私の夏休みの楽しか、
たことは、ふれあい里
親さんらにとまったこ
とです。とま、た毎に
花火をしました。花火
で色で占えるのがあ、
て糸まか出て健康といろのかありま。た
次の日に長とろに行きました。長とろでそばを
食えました。おいしかったです。次に山をのぼり
ました。最初の方は暑かたけど、たんとたんと涼
しくなりました。楽しかったです。また行きたいで
す、

小6(H.K)



R.K

昼間保育



9/4 フッ化物塗布 & ネーブルパーク

羽生市で実施しているフッ化物塗布を済ませ、一路ネーブルパークへ!! ネーブルパークでは、馬のエサやり、ポニー乗馬、電気汽車に乗ったりと、たくさん遊んできました。何と云っても、棟職員の手作りお弁当は子ども達、大喜び♡でした。

8/22 くわの奥納末祭参加



太鼓とりゆうんの威勢の良い笛を合図に、ふれんど特製おみこしが登場! 場内を練り歩き後、舞台へ。練習の成果!? イヤイヤ練習よりはるかに上手な子ども達の姿に、昼間職員は驚きとともに感動していた次第です。今年、低年齢令の集団の上に、人数も6人でしたがよく頑張りました。



新任職員紹介

- 6月からふれんどに^き来ました。
- ^{さくらい} 桜井 ^{ふさこ} 布佐子です。
- ^{からだ} 体を重^{うご}かすことが^{だいす}大好きなので、
- ^{みな}皆さんと^{いっしょ}たくさん^{あそ}一緒に遊^{びたい}びたい
- ^{おも}と思っています。
- ^すおしゃべりすることも好きなので、

^き気が向いたら^ま気軽に^{はな}話し
^{くだ}かけて下さい!!
^{よろ}宜しく^{ねが}お願い
 します☆



あすなろ 夏の思い出

子ども達にとって、待ちに待った夏休みに突入。宿題もいっぱいあるが、お楽しみもいっぱいあります。連日暑い日となり、クーラーが欠かせない。今年もプールを出すか、外より家の中で過ごしていた子どもたちでした。

【夏休みの楽しかったことを聞いてみました。】

小2Aちゃん…1位 小学生一泊旅行

(ふれんどの小学生と、上野動物園やスカイツリーを見ました)

2位 校外出

(あすなろのみんなと、サンシャイン水族館に行きました。)

小6Kちゃん…1位 校外出

2位 小学生一泊旅行

中1Aちゃん…1位 自分の誕生日。13歳おめでとう!

2位 プール

3位 中学生一泊旅行

(ふれんどの中学生と、東京ドームシティや東京散策で原宿に行きました。)

中3Jちゃん…1位 中学生一泊旅行

2位 校外出

3位 みんなの笑顔

子どもたちにとって、旅行が思い出に残ったようです。夏休み後半は、宿題が残っていました。追い込みでなんとか、やりとげた子もいました。子どもたち、職員とも、元気に夏休みを過ごすことができました。さあ、2学期が始まりました。

[文責：萩原]



夏の思い出

ファミリーホームしらかば

横室 満由美

この夏しらかばは特に小学生が頑張りを見せた。まず施設対抗のソフトボール大会の練習では、毎日日本園の練習に参加すると共に自発的にグローブボールを借り、しらかばでキャッチボールの練習をしていた。結果は、1回戦で延長の末惜しくも負けてしまったが、試合に打ち込む真剣な姿はしらかばでは見たことが無いほどだった。自分だけ頑張っても勝てない。みんなで力を合わせることの大事さを感じ取ってくれたのではないかと思う。もう1つはカブトムシの世話である。昨年はおもちゃでも最後まで面倒を見ることが出来ず、炎天下の庭にほり投げられていたのに今年は、自分達のお小遣いでカゴや土を買い大事に大事に育て、幼虫も生まれた。どんなものにも愛情を注ぎ手を掛けることで、新しい命が生まれることを感じてくれていればと思う。横室さん幼虫が2匹生まれたよと報告に来る子供が大好きである。まだまだカブトムシはしらかばの玄関で生きている。少しくらい玄関が臭くても我慢なくちゃーと感じる毎日である。(笑)



心理士から

モデル

モデルと言っても、カッコ良いファッションモデルの話ではない。よく「子どもは大人の背中を見て育つ」と言われるが、その背中のことである。大人の態度のことである。生まれたばかりの子どもは遺伝的なものは内在しているが、態度（状態）としては無である。そこから、近くにいる人（通常は父母）の態度や言葉を取り入れながら成長する。日本人の親に育てられた子どもは日本語を話すようになる。フランス人の親に育てられた子どもはフランス語を話す。それは当たり前のことである。親が日本語で育てているのに子どもだけフランス語を話すというのは聞いたことがない。子どもは親の言葉を模倣しているのである。それは言葉の問題だけではない。言葉を模倣しているように親の態度も模倣しながら育つ。しかも、幼児期までの体験は、その後の子どもの態度、性格にも大きな影響を与える。よく昔から「三つ子の魂百までも」と言われる。昔の人はそれを経験上から学んだことであるが、今は研究成果としても裏付けられている。— 臨界期（敏感期とも言う）の理論 — だから、子ども（特に幼児）を養育している人の影響力は大きいものである。

感化院（現 児童自立支援施設）の創始者の留岡幸助は、このことについて次のように述べている。（要旨）

『子どもは見習うものである。いわば教育は見習いである。しかし、父兄や教師は自分の思いは通りの枠に入れようとする。ところが、子どもは容易にその注文通りにはならない。そこで、色々と説明して聴かすが、子どもはなかなか言う事を聴かない。親は腹を立てる。余計子どもは言う事を聴かない。子どもに説明して聴かすと言う事は道理のようで、はなはだ不合理の事である。重ねて言う、子どもは見習うものである。ゆえに子どもにはよい手本だけ示せばそれでよい。』

また、北海道家庭学校（児童自立支援施設）の校長として有名な谷昌恒（第5代校長）も『教育とは、もともと尊敬できる人に教えてもらう関係で成り立つものである。』と述べている。私たちは、この2人の言葉を見習いたいものである。（守屋昭一）



「夏の思い出」

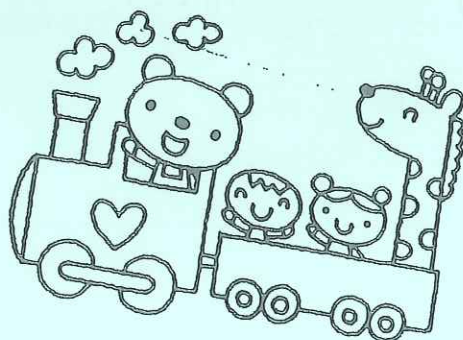
主任 高嶋 聡

ふれんどに来て六度目の夏。仕事上、夏と言えば子ども達への夏休み中の支援。代表的なものとして、七月と八月にわたる一泊旅行と親善球技大会がある。一泊旅行では中高生のグループに参加し、東京方面の散策を初めて体験した。

一日目は、ドームシティの遊園地で過ごす。今年の夏は、長期予報がハズレ猛暑。また、日曜日も重なり、入園数の多さが、より暑さを盛り立てた感じ。昼食時にはテーブル席を確保するのに、小一時間もかかった盛況さで、さすがにここは大都会の東京だと改めて感じた次第。

二日目はグループに分かれ、子どもの希望する買い物やイベント会場に行くが自分のグループは途中予定変更をして、秋葉原を目指した。一日フリーパスの乗車券は、とても重宝だが不案内な土地勘では、役立たずといった感じ。それでも、子どもと駅の案内板を見ながら四苦八苦、目的地に着くと、二人で良かったとハイタッチの場面も。学生時代には、山の手、総武、小田急、東横などホームや階段を慣れた早足で歩いたものだが、年に一度か二度しか行かない今では、お上りさんと同様。子ども達と同じく場数を踏まないといけないことを痛感した。

一泊旅行の期間は、猛暑であったが、それ以降は雨も多く、待望の冷夏。そのため思うようなソフトボールの練習ができなかった様子。また、数年ぶりに女子二人のメンバー入りで、戦力が昨年より落ちたかと感じられたが、実際の本戦では、1対1の好ゲームで、じゃんけんと思っていたのが延長戦となった。結果は敗戦したが、見る側からはスリルある試合内容であった。チームは、小学生を中心にした編成で、今後、高学年が中学生になり、低学年が高学年になった未来のチーム編成ならば、大きな期待が持てると確信した。そんなチームになるようソフトボール熱が冷めないような働きかけが職員として大切だと感じた。



日誌

※毎月、職員会議・自立支援検討会議を実施
※随時、職員研修を実施

8月

1日：手小林夏祭り
2～3日：ふれんど中高生一泊旅行
15日：幼児「おかあさんといっしょ」鑑賞
22日：くわの実納涼祭
25日：親善球技大会
31日：中学校・手小林小・川俣小始業式
棟外出・残留児外出

9月

1日：新二小・誠和福祉・幼稚園始業式
9日：幼稚園 敬老参観
19日：東中 合唱コンクール
25日：西中 合唱コンクール
26日：南中 合唱コンクール・文化祭
手小林小 運動会
27日：川俣小 運動会
新二小 運動会

10月

4日：幼稚園 運動会
8日：誠和福祉 体育祭
14～15日：北埼玉地区大会
22日：市内音楽祭
24日：手小林小 土曜PTA
新二小 すずかけ祭り
28日：幼稚園 卒園旅行
31日：川俣小 ファミリー参観

11月

1日：ふれんど運動会
手小林小 資源回収
2日：南中 学校公開日
9～10日：新二小 修学旅行
15日：手小林小 開校記念日
26日：川俣小 持久走大会
27日：新二小 持久走大会

いつも温かいご支援ありがとうございます
～寄贈品～

セカンドハーベストジャパン・岡戸富美子・ライブガーデン・フードバンク北関東・島田精肉店・岩上治・チュチュアンナ・染田貞夫・比賀電機・空と雲の家・岩浅尚子・関根瑞穂・(株)クリバ・(株)ジャパングートウェイ・石井敏夫・漆原弘一・くぼ接骨院・藤田奈保子・斉藤悦也・石原ミサヲ・(有)坪井生花店・小林静子・小磯キミ・駒一史・坪井君子・ハッピーステップス・田尾和子・木村周作商店・河田美登里・あゆみ学園施設長

(敬称略・順不同)

〈編集後記〉

季節が一步先に進み、随分と過ごしやすい季節になりました。外で遊ぶ子ども達の元気な声が、高い空に響き渡っています。子ども達に負けないように、職員も『体力をつけないといけない!!』と思うこの頃です……。

担当：櫻井・田中